

# <芸術科>

## 指導事例一覧

番号	科目名	言語活動の特色	題材・単元名	分類	活動
1	音楽 I	音楽の特徴などを言葉で表すことにより鑑賞を深める事例	歌舞伎の魅力を探ろう	(2)ア (2)イ	①④
2	美術 I	美術作品を比較・検討することを通して美術文化の理解を深める事例	日本の美術の伝統と創造	(2)ア (2)イ	⑥
3	工芸 I	他者と考えを交流することにより、見方や考えを深める事例	使う人、使う場を考えたカップの制作	(1)ア(ii) (2)イ	⑤⑥
4	書道 I	心に響く言葉を工夫しながら表現し、根拠をもって鑑賞し合う事例	心に響く言葉を表現し、鑑賞し合おう	(1)ア (2)イ	⑤⑥

### <分類、活動の見方>

分類・・・言語の役割を踏まえ言語活動を分類したもの（詳細は第2章7～9ページ参照）

#### (1) 知的活動（論理や思考）に関すること

ア 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること

(i) 事実を正確に理解すること

(ii) 他者に的確に分かりやすく伝えること

イ 事実等を解釈し説明するとともに、自分の考えをもつこと、さらに互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

(i) 事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深めること

(ii) 考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

#### (2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること

ア 互いの存在についての理解を深め、尊重すること

イ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりすること

活動・・・思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動（詳細は第1章5～6ページ参照）

① 体験から感じ取ったことを表現する

② 事実を正確に理解し伝達する

③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

④ 情報を分析・評価し、論述する

⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

【学習活動の概要】

1 題材名 歌舞伎の魅力を探ろう		
2 題材の目標 歌舞伎の中で音楽が果たしている役割を考え、歌舞伎音楽の特徴、音楽と物語や演出との関わりなどを理解し、歌舞伎音楽のよさや美しさを味わう。		
3 題材の評価規準		
	音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
	歌舞伎音楽の特徴、音楽と物語や演出との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	長唄の声や楽器の音色、歌舞伎音楽の独特なリズム、唄や楽器の重なり方などのテクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌舞伎音楽の特徴などを理解し、解釈したり自分にとっての価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴いている。
4 取り上げる言語活動と教材		
(1) 言語活動 感じ取った音楽の特徴などについてワークシートに書いたり話し合ったりすること。		
(2) 教材 歌舞伎「勸進帳」(抜粋)、歌舞伎舞踊「連獅子」(抜粋)		
5 題材の指導計画(全5時間)		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次 (1)	・オペラと比較しながら「勸進帳」, 「連獅子」の抜粋(以下「歌舞伎」という)を視聴し、歌舞伎の特徴などについて話し合う。	・オペラと歌舞伎を比較しやすい場面を取り上げて、歌舞伎の特徴に生徒が興味・関心をもてるようにし、活発な意見交換を促すとともに、ワークシートに整理させる。
第2次 (2)	・長唄の声や楽器の音色、歌舞伎音楽の独特なリズム、唄や楽器の音の重なり方などに着目して聴き、知覚・感受を深めるとともに、歌舞伎音楽の特徴を捉え、音楽と物語や演出との関わりを考える。	・音楽を聴きながら、ワークシートに「感じ取ったこと・その音楽的な理由」をメモさせることによって、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を深めさせる。その上で、音楽と物語や演出との関わりについて考え、主体的に話し合わせる。
第3次 (2)	・視聴しながら、歌舞伎の中で音楽が果たしている役割を考えて、歌舞伎音楽のよさについて書き(批評文)、内容を紹介し合い、改めて歌舞伎(ハイライト)を鑑賞する。	・歌舞伎に音楽が入らなかったらどのような表現になるかを考えるなどして音楽の役割を意識させ、これまでの学習を基に歌舞伎音楽のよさについて自分なりの考えをもつことができるようにする。

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領の関連】

本題材に関連する「B鑑賞」の指導事項イ、エは、次のとおりである。

イ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。

エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること。

なお、イの「音楽を形づくっている要素」については、特に、音色（長唄の声や歌舞伎に用いられる楽器の音色など）、リズム（歌舞伎音楽の独特なリズムなど）、テクスチャ（唄や楽器の重なり方など）を扱う。

### 【言語活動の充実の工夫】

音楽の表現や鑑賞を充実するために、学習の過程において、意見交換やワークシートへの記入などの言語活動を次のように取り入れる。

#### ①第1次

オペラと比較しながら歌舞伎を視聴して、気付いたことなどを自由に発言し、全体で意見交換をする中で歌舞伎の特徴に興味・関心をもち、それをワークシートに記入して整理する。

#### ②第2次

音楽を形づくっている要素のうち、特に音色、リズム、テクスチャに着目して聴きながら、

- ・どのような表情や雰囲気か（感じ取ったこと）。
- ・それは音楽のどんなところからか（その音楽的な理由）。

をワークシートにメモをして知覚・感受を深める。さらに、歌舞伎音楽の特徴、音楽と物語や演出との関わりについて考え、グループや全体で話し合う。

#### ③第3次

これまでの学習を基に、次の【テーマ】で自分なりの考えをワークシートに書いてまとめる。

【テーマ】歌舞伎の中で音楽が果たしている役割を考えて、歌舞伎音楽のよさについての考えを書きましょう。

その際、歌舞伎音楽の特徴、音楽と物語や演出との関わりについて触れましょう。

書いた内容を紹介し合い、改めて歌舞伎（ハイライト）を鑑賞する。

#### 学習のポイントと言語活動の工夫

★グループや学級全体の活動、☆個人の活動

#### ①第1次：導入、歌舞伎の特徴に対する興味・関心

→言語活動の工夫 ★気付いたことを自由に発言する。☆ワークシートに記入・整理する。

#### ②第2次：音楽を形づくっている要素の知覚・感受、音楽と物語や演出との関わり

→言語活動の工夫 ☆ワークシートにメモをする。★自分が考えたことを基に話し合う。

#### ③第3次：総合化、解釈、自分なりの価値判断

→言語活動の工夫 ☆批評文にまとめる。★批評文を紹介し合う。

【学習活動の概要】

1 題材名 日本美術の伝統と創造		
2 題材の目標 日本の美術の歴史や表現の特質に関心を持ち、異なる時代の美術作品における主題や表現方法の相違や共通点などから作品のよさや美しさを感じ取り、美術文化についての理解を深める。		
3 題材の評価規準		
	美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
	日本の美術の歴史や表現の特質に関心を持ち、主体的に作品のよさや美しさを感じ取り、美術文化などについての理解を深めようとしている。	日本の美術作品における主題や表現方法の相違や共通点などから作品のよさや美しさを感じ取り、美術文化についての理解を深めている。
4 題材について 本題材は、まず個人で異なる時代の日本の美術作品から特定の時代に栄えた表現を一つ選んで鑑賞し、その作品の特質について調べる。その後、同じ時代の作品を調べた生徒と相違や共通点について話し合い、見方を深める。次に他の時代を調べた人と新しくグループを作り、感じたことや考えたこと、調べたことなどを話し合い、それぞれの時代の伝統的、創造的な側面から日本の美術文化の理解を深める。		
5 題材の指導計画 (全4時間)		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次 (2)	個人で絵巻、障屏画、浮世絵の内、一つの時代の作品を選び、その作品を鑑賞し、調べる。その後、同じ時代の作品を調べた生徒でグループになり、相違や共通性の側面から作品について話し合う。(活動①)	・グループで話し合う際の共通の視点である、相違や共通性のそれぞれの視点について生徒に理解させておく。
第2次 (2)	前時のグループを絵巻、障屏画、浮世絵を調べた生徒が一緒になる新しいグループを編成し直す。  作品を鑑賞し、それぞれが調べたことや前時のグループで話し合ったことを発表する。美術文化の歴史の流れの中における伝統的、創造的な側面から話し合い、グループごとに全体で発表する。(活動②)  個人で今回の学習を通して振り返り美術文化についてまとめる。	・それぞれが調べたことの発表や話し合いが円滑に進むようにグループの人数や座席の配置などを工夫する。  ・絵巻、障屏画、浮世絵それぞれの発表後、相違や共通性、新たに感じたことや考えたことをワークシートなどで整理した後、グループで現代の視点に立って、それぞれの作品を伝統的、創造的な側面から鑑賞させ、感じ取ったことや考えたことを基に話し合わせるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

美術 I 「B鑑賞」エにおいて「日本の美術の歴史や表現の特質，日本及び諸外国の美術文化について理解を深めること」としている。日本の美術は時代の流れの中で発展・変容し，独自の文化を形成してきた特質がある。それらのよさや美しさを感じ取らせたり，その相違や共通点を比較したりすることなどを通して，日本美術のもつ特質を理解させたりすることは大切である。本題材では，特定の時代に栄えた表現をグループに分かれて鑑賞したり，調べたりし，それぞれの見方や感じ方，考え方を基に話し合うことで，日本の美術の歴史や表現の特質への理解を深めることをねらいとしている。

【言語活動の充実の工夫】

【ワークシート例】

- 最初は個人の活動として絵巻，障屏画，浮世絵のいずれかの作品を鑑賞し，作品の特質などを調べる。その後，同じ時代の作品を調べた生徒でグループを作り，それぞれの調べたことを発表し合い，作品の相違点や共通点について話し合うなどの言語活動を行う。ここでは言語活動を行うことで，自分一人では気付かなかったことに気づき，他者との意見の交流を通して，新しい見方や感じ方，考え方を深めることができる。(活動①)

伝統的，創造的な側面の視点例

- ・日本独自の美意識
- ・自然観
- ・それぞれの時代の創造的な精神
- ・美を求める心情
- ・創作への知恵

**日本の美術の伝統と創造**

1. それぞれが調べたことを発表し，相違点や共通点をグループで話し合ひましょう。
2. 他の時代の作品を鑑賞したり，他のグループの人からの説明から下の枠内のことについて話し合ひて，新たに感じたことや考えたことをまとめましょう。
 

・日本独自の美意識    ・自然観    ・それぞれの時代の創造的な精神  
 ・美を求める心情    ・創作への知恵
3. 現代から見て「伝統的な側面」「創造的な側面」について自分の感じたことや考えたことを下の枠内にまとめてグループで話し合ひましょう。
 

伝統的な側面	創造的な側面
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 100%; height: 100%;"></div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 100%; height: 100%;"></div>
4. 今回の学習で「美術文化」について自分自身で感じたことや考えたことを書きましよう。

- 第2次の絵巻，障屏画，浮世絵を調べた生徒が一緒になる新しいグループでの活動では，前時のそれぞれのグループで鑑賞して，感じたことや考えたこと，調べたことを発表し合う。発表では他の生徒から質問や討論などを設定して，自分のグループでは鑑賞したり，調べたりしていない作品などについての理解が深まるようにする。それぞれの生徒が発表した後，今度は全ての作品を現代の視点から鑑賞し，伝統的，創造的な側面について話し合ひ，グループごとに考えをまとめる。話し合ひが終了したらそれぞれのグループで話し合ひたことを発表し，他者の考え方や感じ方を共有する。(活動②) グループ活動後は，個人でグループの話し合ひなどの内容を基に美術文化について自分の考えを整理し，ワークシートにまとめる。

芸術－3(工芸Ⅰ) 他者と考えを交流することにより、見方や考えを深める事例

【学習活動の概要】

1 題材名 使う人、使う場を考えたカップの制作			
2 題材の目標 社会における工芸に関心を持ち、使う人の願いや心情などを考え発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさを考えて構想を練り、意図に応じて材料や用具を活用して制作するとともに、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、工芸の働きについて理解を深める。			
3 題材の評価規準			
工芸への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
社会における工芸に関心を持ち、主体的に発想して制作の構想を練ったり、制作方法を理解し、創意工夫して制作したりしようとしている。	社会的な視点に立って、使う人の願いや心情などを考え、心豊かに発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさを考えて制作の構想を練っている。	制作方法を理解し、意図に応じて材料や用具を活用したり、手順や技法などを吟味するなどし、創意工夫して制作している。	作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深めている。
4 題材について 本題材のカップの制作では、使う人や使う場から取っ手の付いた洋風の茶碗の飲み口の形状や取っ手の形などの機能性、全体の美しさなどを総合的に考えて発想や構想をし、意図に応じて材料や用具を活用して制作を行う。発想や構想の段階や相互鑑賞の場面で言語活動を活用し、他者の考え方などから一層社会的な視点で発想や構想、鑑賞の学習が深められるようにする。			
5 題材の指導計画 (全16時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な視点に立ち、使う人や使う場からカップの飲み口や全体の形状、取っ手の形などの機能性について企画書にまとめる。</li> <li>グループに分かれ、それぞれの企画書を基に発表し、目的や条件、機能、美しさの視点から話し合う。(活動①)</li> <li>他者の意見などから構想を見直し、企画書を修正する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話合いの際に自己の思いを重視するのではなく、社会的な視点に立ち、目的や条件、機能、美しさなどについて話し合わせる。また、自分の考えとは違う他者の意見や新たな考えをワークシートなどに記録させ、構想の見直しに生かせるようにする。</li> </ul>	
第2次 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画書を基に制作意図を確かめながら構想に基づいて、材料や用具を活用して制作する。</li> </ul>		
第3次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成作品を相互鑑賞し、作者の心情や意図と表現の工夫、社会での工芸の働きについて話し合う。(活動②)</li> <li>今回の学習を通して、社会での工芸の働きについて自分の考えをワークシートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互鑑賞では第1次で作成した企画書を作品とともに展示し、作者の意図と表現の工夫の視点から鑑賞の活動を行い、それぞれの生徒が同様な視点で話し合う活動を通して鑑賞の学習が深まるようにする。</li> </ul>	

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領の関連】

工芸Ⅰ「A表現（2）社会と工芸」では、使う人の側から社会や生活を見つめるなど社会的な視点に立って発想し、使う人が求めるものと機能性や合理性を考え、材料や用具を活用し、創意工夫して表現する能力を育成することをねらいとしている。また、「B鑑賞」のウの事項においては、「自然と工芸とのかかわり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、理解を深めること」としている。

本事例は、使う人や使う場などを考えて発想や構想をする場面で言語活動を活用し、作品の役割や使う人の気持ち、形などの客観的な視点を明確にする。また、鑑賞の活動では、相互鑑賞において作者の心情や意図と表現の工夫について話し合い、社会での工芸の働きについての理解を深めることをねらいとしている。

### 【言語活動の充実の工夫】

○それぞれが作成した企画書を基に発表し合い、使う人や使う場から考えて制作するカップの目的や条件、機能、美しさなどについて、意見を述べ合ったり、討論させたりする。その際、自己の思いを重視するのではなく、社会的な視点に立つことを重視して話し合わせる。このように発想や構想の場面において意見を述べ合ったり、討論したりするなどの言語活動を行うことで、他者の意見などから自分の考えが整理されたり、客観的な視点が明確になることが構想の改善につながる。（活動①）

#### 【企画書の例】

<b>カップ制作の企画書</b>
• 使用する人 _____
• 使用する場 _____
• 使用する人や場などに求められる機能やカップの形状、配慮すべき条件などについて
• アイデアスケッチ

#### 【ワークシートの例】

• 意見交流で他の人の考え方や新たに気付いたこと
• 作品の役割 • 使う人の気持ち • 形や色彩 • 材料の適切さ
• 企画書の改善をするところ
• 制作の手順や技法
社会における工芸の働きについて自分の考えを書きましょう。
----- ----- ----- ----- ----- -----

○相互鑑賞の場面では、作者の意図と表現の工夫を中心に鑑賞の活動ができるように作品だけの展示ではなく、発想や構想の段階で作成した企画書を一緒に展示して鑑賞の活動を行う。相互鑑賞後、グループごとに作品を鑑賞して感じたことや考えたことなどの意見交流の内容を基に社会における工芸の働きについて話し合い、その理解を深める。（活動②）

芸術－4(書道Ⅰ) 心に響く言葉を工夫しながら表現し、根拠をもって鑑賞し合う事例  
【学習活動の概要】

1 単元名 心に響く言葉を表現し、鑑賞し合おう			
2 単元の目標 図書館でのブックトークと読書活動を通して言葉(素材)を考え、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し表現を工夫する。また、根拠をもって自作について語ったり、批評し合う活動を通して、書よさや美しさを創造的に味わう。			
3 単元の評価規準			
書への 関心・意欲・態度	書表現の 構想と工夫	創造的な書表現の 技能	鑑賞の能力
<b>表現</b> 漢字仮名交じりの書の創造的活動の喜びを味わい、意欲的、主体的に表現に取り組もうとしている。 <b>鑑賞</b> 書よさや美しさを感じ取り、鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	名筆よさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、言葉(素材)にふさわしい表現を構想し、表現を工夫している。	漢字と仮名の調和を図り、用具・用材、線質、全体の構成など、効果的な表現の技能を身に付け表している。	書の伝統と文化について幅広く理解し、作品について互いに批評し合う活動を通して、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
4 取り上げる言語活動			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館でのブックトークや読書活動を通して、表現したい言葉(素材)を考える。</li> <li>・言葉(素材)のイメージを基に、それにふさわしい表現を構想し工夫する。</li> <li>・自作について言葉(素材)と表現との関係や意図について確かな言葉で伝え合う。</li> <li>・根拠をもって作品について互いに批評し合い、鑑賞文としてまとめ全体で発表し合う。</li> </ul>			
5 単元の指導計画(全8時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (2)	図書館でのブックトークを聞き、読書活動を通して、作品とする言葉を生み出す。言葉(素材)にあった表現を構想する上で、参考とする古典を考え作品の草稿を作る。	自分の心に響く言葉(素材)を考え、その言葉のもつ背景やイメージなどをワークシートに記入することで、表現への意欲を高めるようにする。	
第2次 (2)	自らの意図に基づき、作品の構想を練り、半切1/3の用紙(縦横自由)に制作する。第1作について感想や表現上の課題等についてまとめる。	第1作に表現された言葉への思いを感想文としてまとめ、課題を明確にすることで表現の工夫へとつなげていくようにする。	
第3次 (2)	前時の学習を踏まえ、漢字と仮名の調和、字形、墨色、全体の構成等の表現を工夫する。グループごとに作品について批評し合い、表現を練り上げる。	作品を批評し合う活動においては優れた点や課題などを具体的に批評し合うようにし、工夫によって表現の深化が図られるようにする。	
第4次 (2)	作品を完成させ、グループで自作の表現の意図について語り、互いに批評し合って鑑賞文をまとめる。他人の作品について全体に発表する。	自作の制作意図や言葉への思いを語り、互いに作品鑑賞文をまとめ合う。これを踏まえ、他人の作品よさや美しさを全体に紹介するように発表し合う。	



【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

芸術 書道Ⅰ「A 表現」の(1)漢字仮名交じりの書のイ「漢字と仮名の調和した線質の表し方を習得すること」、ウ「字形、文字の大きさと全体の構成を工夫すること」、エ「名筆を生かした表現を理解し、工夫すること」、オ「目的や用途に即した形式、意図に基づく表現を工夫すること」を踏まえ、本事例では、図書館との連携を図りながら、生徒にとって心に響く言葉を考え、それにふさわしい作品を構想し、表現を工夫する。併せて、「B 鑑賞」のイ「見ることを楽しみ、書の美しさと表現効果を味わい、感じ取ること」及び「内容の取扱い」(5)の「内容Bの指導に当たっては、作品について互いに批評し合う活動などを取り入れるようにする」を踏まえ、言葉(素材)と表現の関係など、表現の意図を説明したり、グループでの鑑賞を通して、それぞれの作品の持つよさや美しさを感じ取り、批評し合ったりすることで表現の深化を図っていく。

【言語活動の充実の工夫】

本事例は漢字の書と仮名の書の学習を踏まえ、書道Ⅰのまとめの単元としての「漢字仮名交じりの書」を取り上げたものである。ここでは、作品として表現しようとする言葉を生み出していく活動と作品を鑑賞し合う活動の二方面から言語活動の充実を図っている。

第1次では図書館との連携を図り、ブックトークを通して生徒が図書を選定したり、読書活動を通して図書の内容を踏まえたキャッチコピーをつくらせたりすることで、作品に表現する言葉(素材)を生み出していく。ワークシートにその言葉がもつ背景、イメージ、また参考にした書物等の概要や感想を端的な言葉で書き入れ、作品の構想につなげるようにする。また、言葉にふさわしい表現をするために、言葉のもつイメージに合う既習の参考古典を決め、作品の草稿を作成していく。下のワークシート①と②は、読書活動を通して言葉を生み出す過程、表現したい思いなどを記入し、表現の構想へとつなげるためのものである。

第2次では、前時の草稿を基にして作品を制作していく。前時で選んだ書の古典のもつよさや表現の特徴を生かすように促していく。また、最初の第1作については、言葉への思いが素直に表現されていることが多いので、言葉(素材)と表現の関係、制作の意図や改善すべき課題などについてワークシートにまとめておくことも考えられる。

第3次では、表現の工夫をしながら作品を練り上げ、グループによる互いに批評し合う活動を通して、作品の優れた点や課題などを明確にし、表現の深まりを図るようにする。特に、線質、字形、墨色、全体の構成など表現要素を示すことで、改善点を言葉で明確に示すようにしたい。

第4次では、前時を踏まえ作品を完成させ、鑑賞をグループ、そして、全体で行う。グループごとに制作の意図、工夫の過程、完成作品について自分の言葉で語るようにする。言葉(素材)へのイメージがどのように作品に具現化されているか、表現を工夫することでの作品の変容過程などについて話し合う。話し合ったことを総合的に鑑賞文としてまとめる。全体鑑賞会においては、この鑑賞文を基に、他人の作品の表現の意図、よさや美しさ、表現の特色などについて、作品をクラス全体に紹介をするように発表し合う。

〈ワークシート① 話のイメージを言葉へ〉

〈ワークシート② 言葉への思いを作品へ、自己評価〉

